

「令和6年度富山市中学校1年生学力調査」
結果の概要について

富山市教育委員会

「令和6年度富山市中学校1年生学力調査」結果の概要について

I 本調査の目的

- ・各中学校が、1学年生徒の入学時の学力定着状況を把握し、今後の学力向上に向けた学習指導に生かす。
- ・生徒一人一人が自分の努力すべき課題に向かって、意欲的に学習に取り組む。
- ・各小学校は、卒業生の調査結果を踏まえ、学習指導の改善・充実を図る。

II 実施状況

- 1 実施期日 令和6年4月10日(水)、11日(木)
- 2 調査教科 国語、社会、数学、理科、英語
- 3 実施学校数・生徒数

実施学校数	生 徒 数	
26校 1分校 (附属中を含む)	在籍数	3,298人
	受検者数	3,170人 (5教科全てを受検した生徒数)

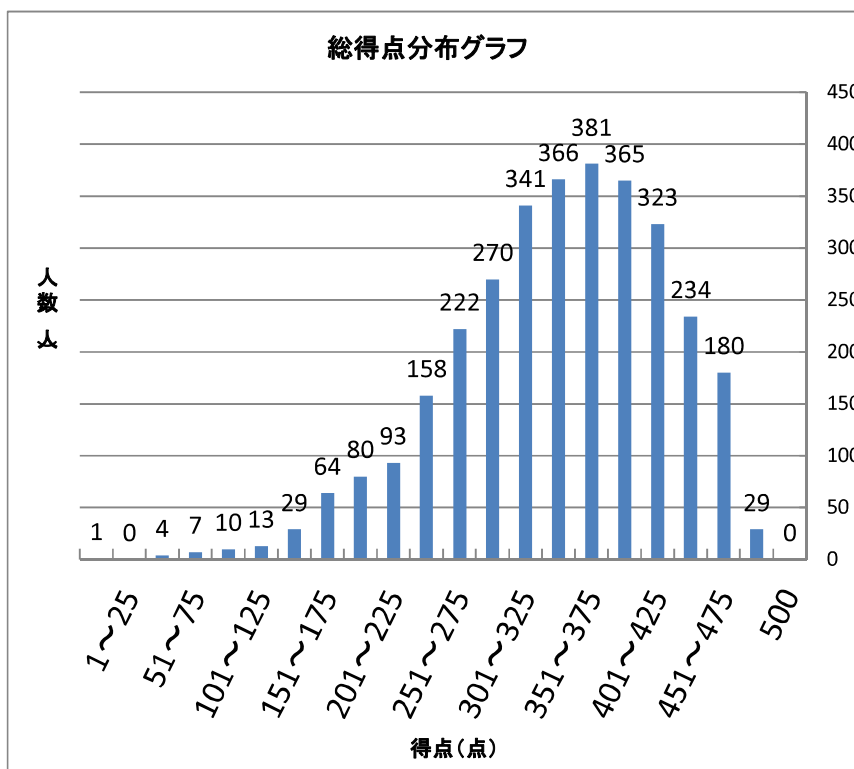
III 結果の概況(小数第2位で四捨五入しているため、計が100%にならない場合がある。)

1 教科別全生徒平均点

国語	社会	数学	理科	英語	5教科
70.0点	64.2点	66.1点	63.9点	72.8点	337.4点

2 総得点分布表・グラフ

得点範囲	度数	%
500	0	0%
476～499	29	0.9%
451～475	180	5.7%
426～450	234	7.4%
401～425	323	10.2%
376～400	365	11.5%
351～375	381	12.0%
326～350	366	11.5%
301～325	341	10.8%
276～300	270	8.5%
251～275	222	7.0%
226～250	158	5.0%
201～225	93	2.9%
176～200	80	2.5%
151～175	64	2.0%
126～150	29	0.9%
101～125	13	0.4%
76～100	10	0.3%
51～75	7	0.2%
26～50	4	0.1%
1～25	0	0.0%
0	1	0.0%
計	3170	100.0%

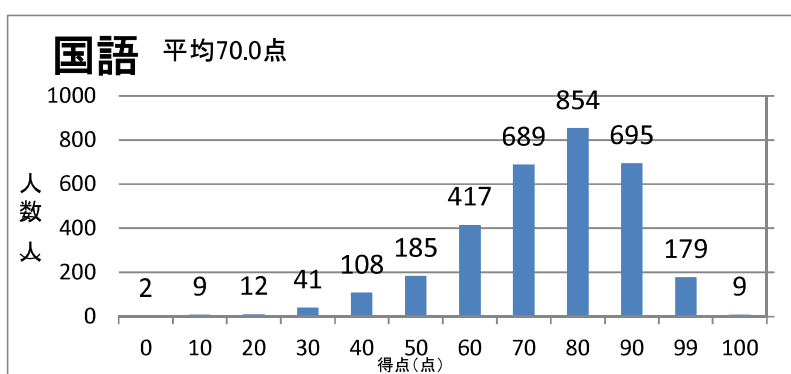


3 教科別得点分布表・グラフ

(小数第2位で四捨五入しているため、計が100%にならない場合がある。)

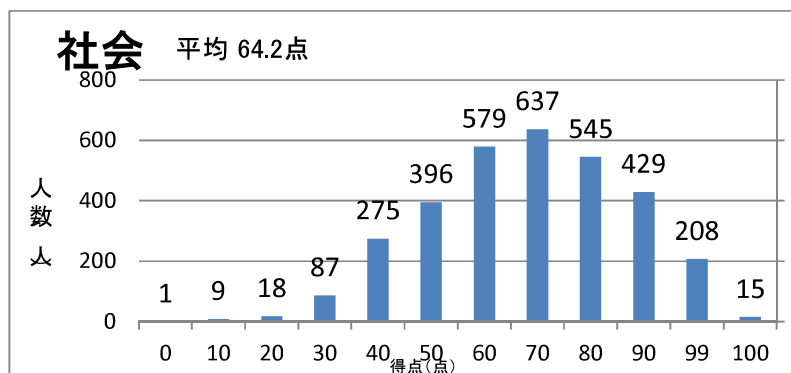
国語

得点範囲	度数	%
100	9	0.3%
91～99	179	5.6%
81～90	695	21.7%
71～80	854	26.7%
61～70	689	21.5%
51～60	417	13.0%
41～50	185	5.8%
31～40	108	3.4%
21～30	41	1.3%
11～20	12	0.4%
1～10	9	0.3%
0	2	0.1%
計	3200	100.0%



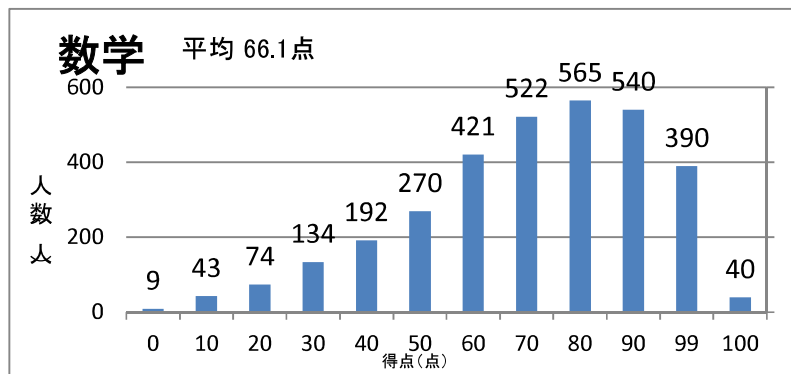
社会

得点範囲	度数	%
100	15	0.5%
91～99	208	6.5%
81～90	429	13.4%
71～80	545	17.0%
61～70	637	19.9%
51～60	579	18.1%
41～50	396	12.4%
31～40	275	8.6%
21～30	87	2.7%
11～20	18	0.6%
1～10	9	0.3%
0	1	0.0%
計	3199	100.0%



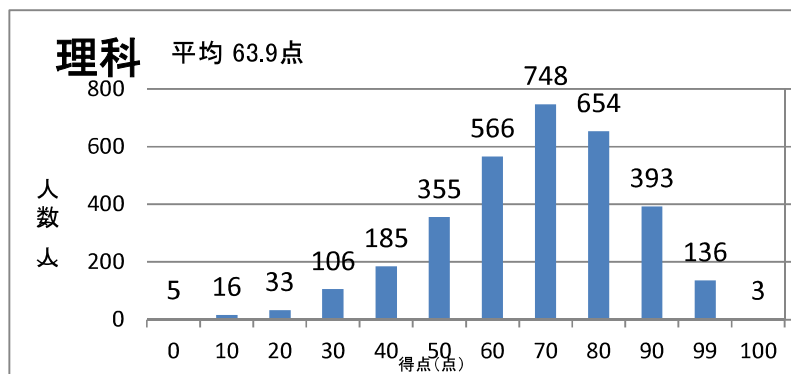
数学

得点範囲	度数	%
100	40	1.3%
91～99	390	12.2%
81～90	540	16.9%
71～80	565	17.7%
61～70	522	16.3%
51～60	421	13.2%
41～50	270	8.4%
31～40	192	6.0%
21～30	134	4.2%
11～20	74	2.3%
1～10	43	1.3%
0	9	0.3%
計	3200	100.0%



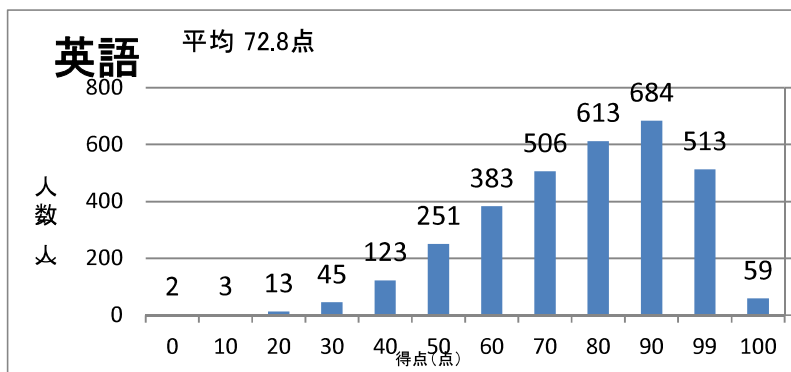
理科

得点範囲	度数	%
100	3	0.1%
91～99	136	4.3%
81～90	393	12.3%
71～80	654	20.4%
61～70	748	23.4%
51～60	566	17.7%
41～50	355	11.1%
31～40	185	5.8%
21～30	106	3.3%
11～20	33	1.0%
1～10	16	0.5%
0	5	0.2%
計	3200	100.0%



英語

得点範囲	度数	%
100	59	1.8%
91～99	513	16.1%
81～90	684	21.4%
71～80	613	19.2%
61～70	506	15.8%
51～60	383	12.0%
41～50	251	7.9%
31～40	123	3.8%
21～30	45	1.4%
11～20	13	0.4%
1～10	3	0.1%
0	2	0.1%
計	3195	100.0%



IV 結果の概要

1 抽出調査について

26 中学校の各学級 8 人（男子 4 名、女子 4 名）をそれぞれ出席番号の早い順に 1 番から 4 番までを抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、各クラスから 8 人の抽出を行うものとした。

2 抽出生徒数

学校数 学級数 抽出生徒数 26 校 93 学級 743 人（附属中含む）

V 各教科の概要

1 教科の考察

(1) 教科全体から見た結果

「得点分布表」「観点別解答率表」等から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

(2) 正答率の高い問題について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

(3) 読解力と正答率の関連について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率と読解力との関連について、実際の問題の一部を提示しながら考察を行う。

2 今後の指導

1 の(3)で考察した読解力の視点も含め、今後の指導の工夫について表記する。

VI 読解力の視点からの考察

1 読解力

文部科学省によると読解力とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと」と定義されている。一般的には、主語と述語の関係や、「それ」などの指示語が何を指しているのかなど、文章で表された情報を的確に理解する力である。また、「PISA 型読解力」とは、一般的な文字や文章といった「連続型テキスト」の理解だけでなく、グラフや図表、地図等様々な資料（「非連続型テキスト」）を理解し、利用し、熟考する力であるとされている。

2 読解力の視点からみえる課題

今回分析をした各教科における読解力をみる問題における正答率（複数問題が設定されている場合は、最も低い正答率）は以下のとおりである。

国語	社会	数学	理科	英語
63.9%	30.1%	42.8%	37.0%	63.4%

社会、理科の正答率は、いずれも 40%を下回っている。教科によって正答率にばらつきがあることから、読解力の育成が重要な課題であると言える。各教科の分析については、次頁以降に詳しく掲載した。

全教科を通して、複数の資料から一つ一つの事柄や情報を読み取り、読み取った事柄や情報を関連づけて考えることに課題があると言える。さらに、関連づけて考えたことを自分の意見として適切に表現することにおいても課題がある。例えば、社会科においては、貿易に関する 2 つの資料を適切に読み取り、それらを関連づけながら社会的事象の意味をとらえ、適切に表現しているものを選択したり自分の考えたことを表したりする設問の正答率が低い。読解力の育成とともに、資料を適切に読み取り、その特色をとらえるために必要な知識の習得や解釈したことを表現する力の育成においても課題がある。

3 読解力の向上に向けた今後の指導

○主体的な学びのある授業

生徒自身が「知りたい、考えたい」という内的な動機を高め、課題をもつことによって「その課題を解決するために、どのような情報や方法が必要か」という必要感や切実感が生まれる。その際、1 つの資料や情報だけでなく、様々な資料や情報の中から自分が必要とする内容を選択したり、2 つ以上の内容を関連づけて整理・分析したりする過程を大切にする。そして、その過程を通して分かったことや考察したことを書き表したり、人に伝えたりしながら、「自分の考えがより明確になった」「相手に分かりやすく伝わった」など、学んだことのよさが感じられるようになる。答えが一つではないことを仲間と話し合い、多様な見方や考え方に触れることを繰り返すことによって、読解力の向上を図ることができ、主体性のある生徒の育成につながる。

○日常生活における言語感覚の醸成

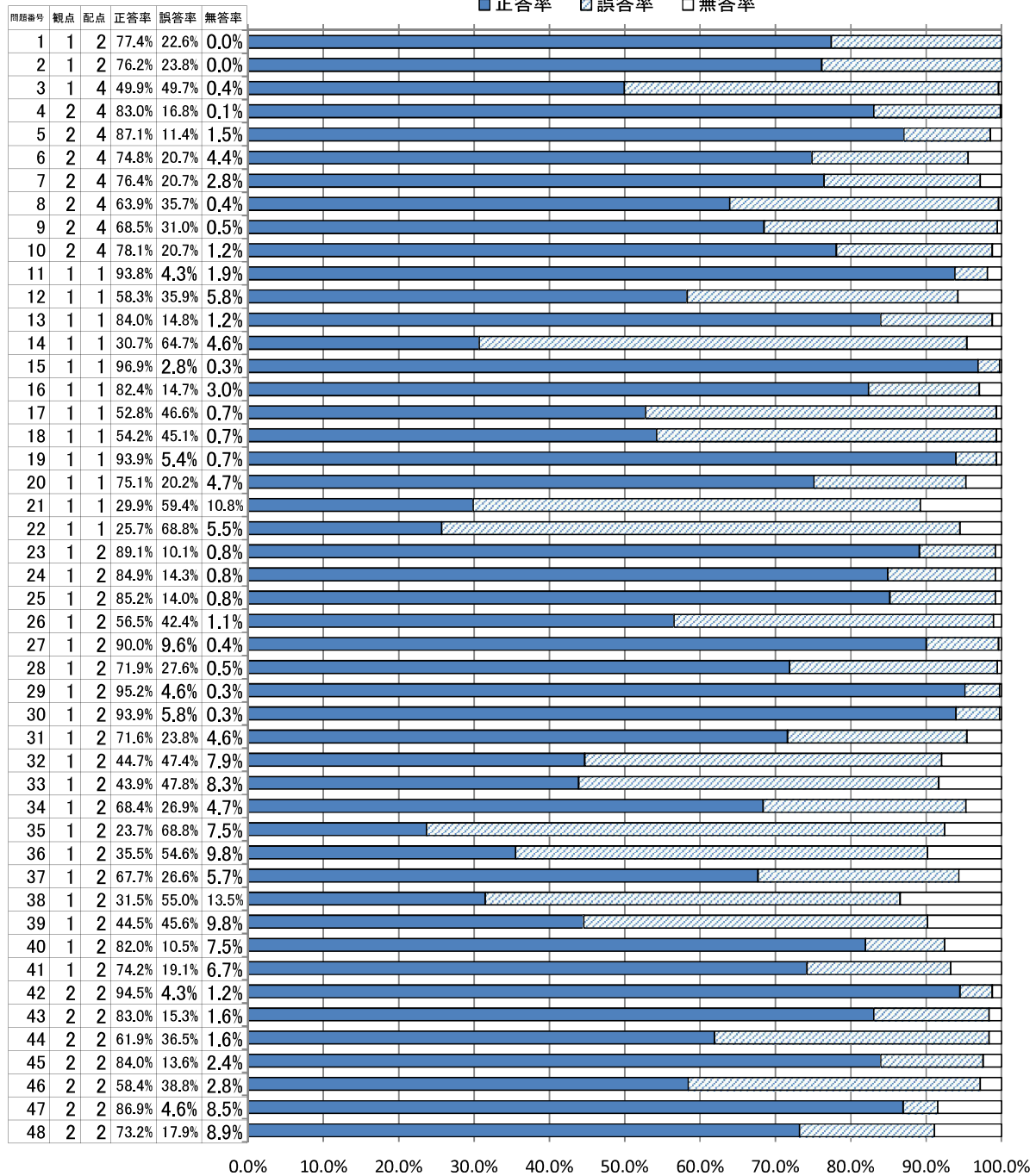
新聞や広報誌等の記事や実用的な文章、表やグラフ等を読み、考えたこと等を仲間と伝え合う場を日常的に設けることによって、生徒の生活の中にある言葉や文章、表やグラフの意味、その背景にあることをとらえることにつながる。このような活動を積み重ねることにより、生徒自身がもっと知りたいことや確かめたいことを見つけ、自ら端末や辞書で意味を調べることも期待できる。そのためにも日ごろから、日常会話や作文等、豊かな言語環境を整えておきたい。

Ⅶ 抽出生徒から分析する各教科の概要

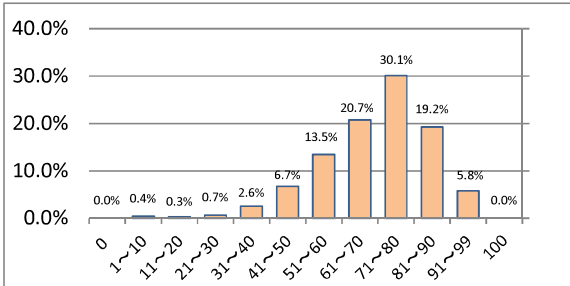
(小数第2位で四捨五入してあるため、正答率、誤答率、無答率の合計が100%にならない場合がある。)

国 語	抽出生徒数	743人	抽出平均	70.0 点
-----	-------	------	------	--------

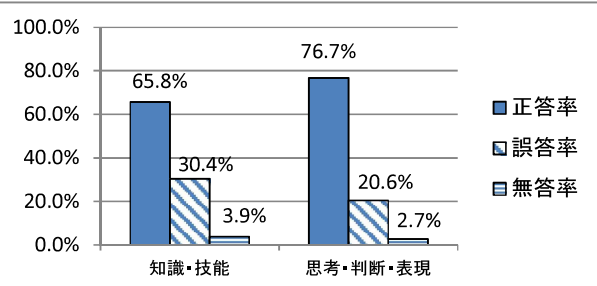
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 国語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は70.0点であり、昨年度(74.0点)から4点低くなっている。観点別の正答率は「知識・技能」が65.8%、「思考・判断・表現」が76.7%であった。漢字を読む問題「試合に臨む」(通し番号14)の読み仮名の正答率30.7%、漢字を書く問題「講演会」(通し番号35)の正答率23.7%、「食べる」の敬語「めしあがる」(通し番号22)の正答率25.7%等、「言葉」に関する問題の中に正答率が40%を下回る問題が6問あり、語彙の豊かさが問われる問題の正答率が低かった。

(2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」を問う問題では、送り仮名のない漢字を読む問題(通し番号11、15)の正答率が93%以上と高い。また、同音の漢字を選ぶ問題(通し番号29)の正答率も95%以上と高い。普段、学習中によく使う漢字や語句に関しては、おおむね定着していると考えられる。

「思考・判断・表現」を問う問題では、話し合いにおける話し方や聞き方の工夫についてあてはまるものを選ぶ問題(通し番号42、43)の正答率が高い。立場や意図を明確にしながら話し合うための話し方や聞き方は身につけていると考えられる。

(3) 読解力と正答率の関連について

説明的な文章において、文章の要旨として適切なものを選ぶ問題(通し番号8)の正答率が63.9%、文章の特徴として適切なものを選ぶ問題(通し番号9、10)の正答率がそれぞれ68.5%、78.1%であった。文章全体の構成をとらえ、要旨を把握する力や筆者が自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進め、説得力を高めようとしているのかを読み取る力に課題が見られる。

(通し番号8)

6 この文章の要旨として、最も適切なものを次のア～エから一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 「弱いロボット」こそ、これからの未来に必要なものである。

イ これから人間とテクノロジーは、たがいに関わり合い、支え合っていく必要がある。

ウ これからもテクノロジーの進歩は続き、ますます便利で高性能のものも生み出されていく。

エ 「弱いロボット」には、周りの人の協力を引き出したたり、行動をさそったりする力がある。

(通し番号9・10)

7 この文章の持ちようとして適切なものを次のア～エから二つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 反復表現を多く用いることで、筆者の主張が強調されている。

イ 一歩ん的な考えに対する問題点を取り上げて、論を進めている。

ウ 具体的な例を挙げることで、筆者の考えが読者に分かりやすく伝わるようにしている。

エ データを根拠にすることで、筆者の主張の説得力を高めている。

また、過去の類似問題でも正答率が低かった文の主語を選ぶ問題(通し番号26)の正答率は56.5%(R4正答率31.0%、R5正答率28.1%)であった。正答率は上がったが、他の主語を選ぶ問題(通し番号24～25)の正答率は84%を超えていることから、述語の主体に留意しながら読む力をつけること、形や位置にとらわれず、文章中の語句の役割を正しくとらえていくことが今後も継続した課題である。

(通し番号26)

_____の主語として適切な部分を、それぞれ一つずつ選び、その記号を書きましょう。

ア これは、イ 先生が ウ すすめてくれた エ 本だ。

2 今後の授業に向けて

(1) 説明的な文章を扱う授業では、筆者の考えやその根拠、さらには筆者の思いか事実かななどを区別しながら読むこと、文章全体の構成、段落相互の関係をとらえて読むことが大切である。さらには、「筆者は、なぜそのような論の進め方をしたのか。その論の進め方をすることで、どのような効果があるのか」など、論の展開の仕方が読み手に与える効果について考えながら読む学習活動を取り入れたい。

(2) 端末で変換したときに出てくる漢字や熟語を選択する際は、それぞれの漢字や言葉の意味を理解し考慮したうえで選択すること、生活の中で知らない言葉や漢字が出てきたら端末や辞書で調べること、普段書く文章の中で、常に語句と語句の係り受けを意識することなどの指導を継続的に行い、話や文章の中で使いこなせる語句の数を増やしていくことが大切である。

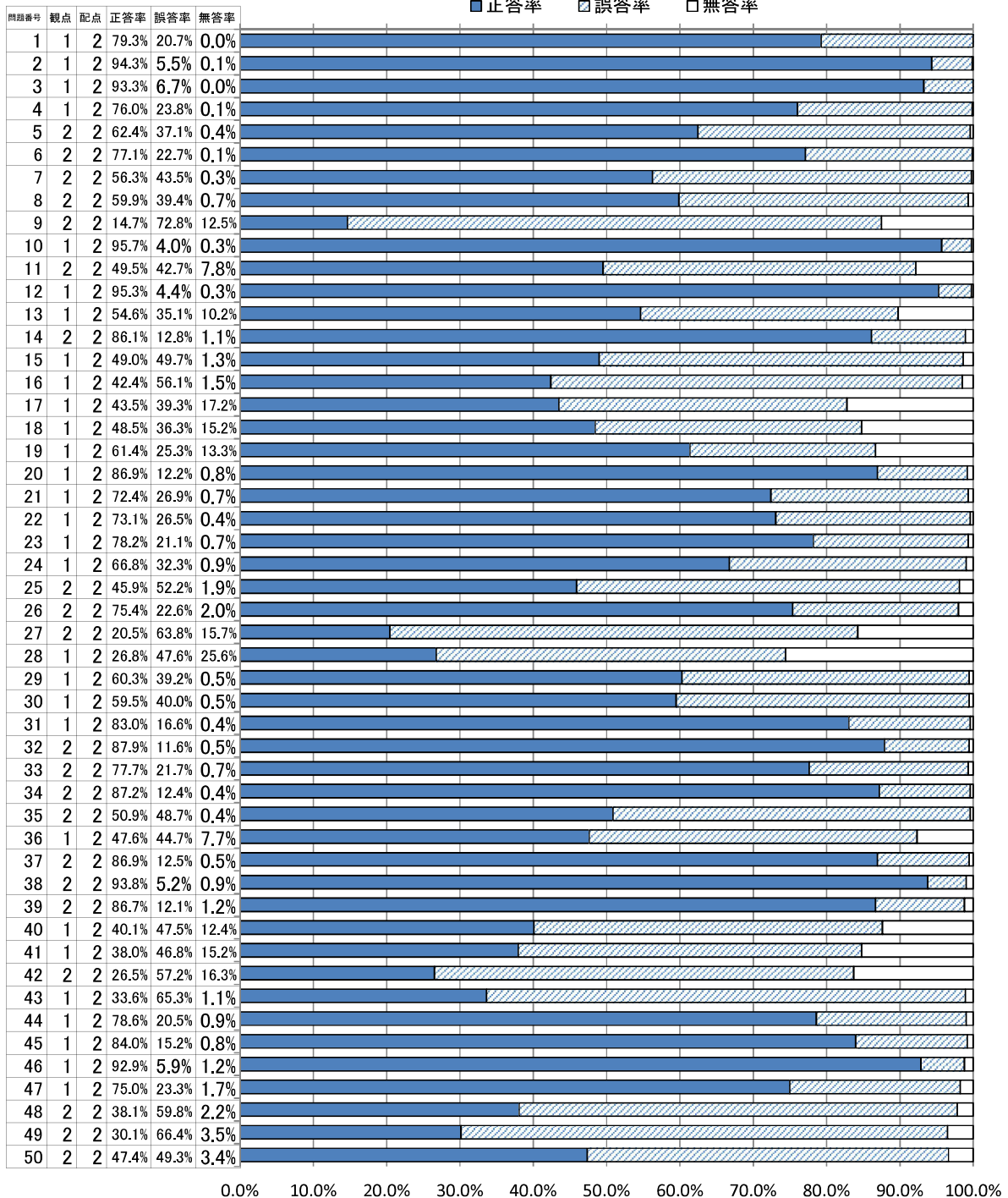
(1)(2)ともに、自分の考えを整理・分析し、まとめ・表現する際に役立つということを子ども自身が理解し、使いこなせるように指導していきたい。

社会

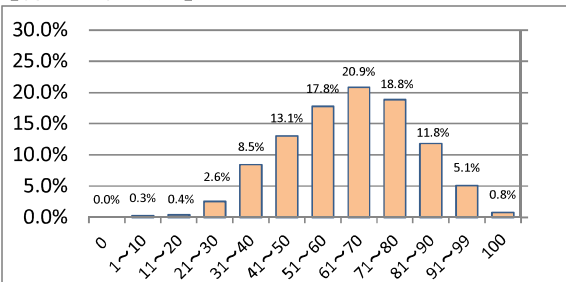
抽出生徒数 743人

抽出平均 63.8点

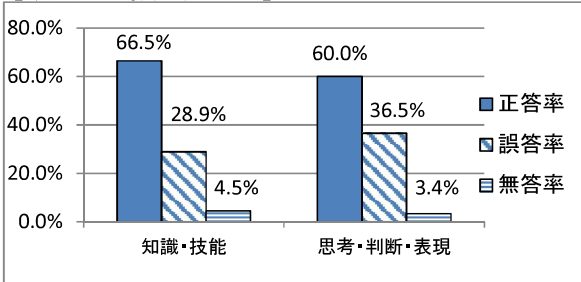
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 社会科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は、63.8点である。観点別の正答率は、「知識・技能」が66.5%、「思考・判断・表現」が60.0%であった。

災害に関する取り組みや施設について関連する自然災害を選択する問題の正答率が高い一方で、冬の日本海側の気候の特色について用語を用いて記述する問題や、資料を読み取って大久保利通らが取り組んだ政策の名前を書く問題の正答率が低い。地図やグラフから読み取ったことや既習事項と、新たに登場した事象とを関連づける学習場面を充実させることによって、事象の特色や意味まで理解できるようにする必要がある。

無答率が10%以上の問題は10問あり、昨年度(15問)より減少した。歴史上の人物の名前や立法府の名称、「地産地消」「太平洋ベルト」「廃藩置県」等、語句を答える問題の無答率が高い。また記述式の問題の無答率も高く、調べたことを整理・分析する場面や、学習のまとめ・表現の場面において、用語や語句を用いて相互に関連づけながら表現することで、生徒自らが活用できる知識として習得できるようにすることが求められる。

(2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」を問う問題では、日本の近隣諸国や位置を選択する問題や、自然災害と関連する取り組みや施設を選択する問題、食料生産に関する用語を選択する問題、裁判所の働きについて選択する問題(通し番号2、3、10、12、46)の正答率が高かった。また、「思考・判断・表現」を問う問題では、日本国憲法の3つの原則と資料との関係が深いものを選択する問題(通し番号38)の正答率が高かった。既習事項や生活経験と結びつけて社会的事象の特色をとらえる力が身についていると考えられる。

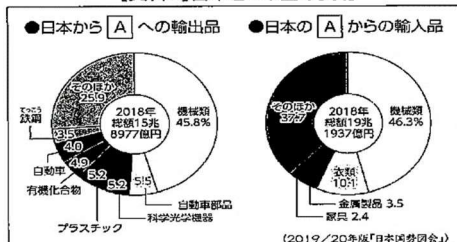
(3) 読解力と正答率の関連について

日本とのつながりの深い国について、日本との輸入と輸出とのグラフを読み取り、2つの資料を関連づけてその国の特色を考え、適切に表現しているものを選択する問題(通し番号49、50)は、正答率が30.1%、及び47.4%であった。資料を適切に読み取り、その特色をとらえるために必要な知識の習得や、複数の事象を関連づけて社会的事象の特色を考えることに課題がある。

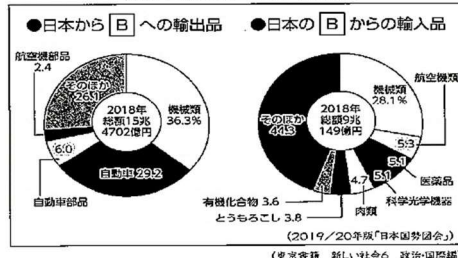
(通し番号49、50)

(9) 日本とつながりの深い4つの国々(アメリカ合衆国、中華人民共和国、大韓民国、サウジアラビア)について調べました。【資料5】【資料6】を見て、Aの国・Bの国を説明している文として、正しいものをア～エから選び、記号を書きましょう。

【資料5】日本とAの国の貿易



【資料6】日本とBの国の貿易



- ア 石油を輸出して得たお金が国家の収入となり、教育や福祉に必要な費用は、国が負担している。国の宗教はイスラム教で、1日に5回いのりをささげている。
- イ 宇宙開発の研究が進んでいて、世界各国が参加したり協力したりしている。さまざまな民族が世界中から集まり、多文化社会といわれている。
- ウ 電気機械の輸出がさかんで、世界規模の電気機械メーカーもある。キムチや伝統的な衣装のチョゴリやチマ、バジが有名である。
- エ 日本との貿易が活発で、身の回りには、衣類や食品などの輸入品がたくさんある。この国とは古くから交流があり、お茶や漢字などが伝わってきた。

2 今後の授業に向けて

- 資料を読み取る場面では、何を読み取るのかといった資料活用の目的を明確にした上で、生徒が課題解決に向けて資料から分かったことや考えたことを自分の言葉でまとめたり、他の生徒のまとめと比べて自らのまとめを見直したりすることが大切である。目的意識をもって読み取ったことを整理し、表現する場面を位置づけることで、事象について多面的に理解を深めていくことができる。
- 社会的事象の意味や特色について理解を深めるためには、生徒が思わず考えたいような学習課題が大切である。例えば、「自動車をつくる工業」の学習において、「あなたならどこに自動車工場をつくるか」と学習課題を設定することで、製造の工程や交通網の広がり、外国とのかかわり等といった様々な事象と関連させながら課題解決に取り組むことができるなど、生徒の問題意識を高めるとともに、様々な知識を関連づけながら習得することができる。

数 学

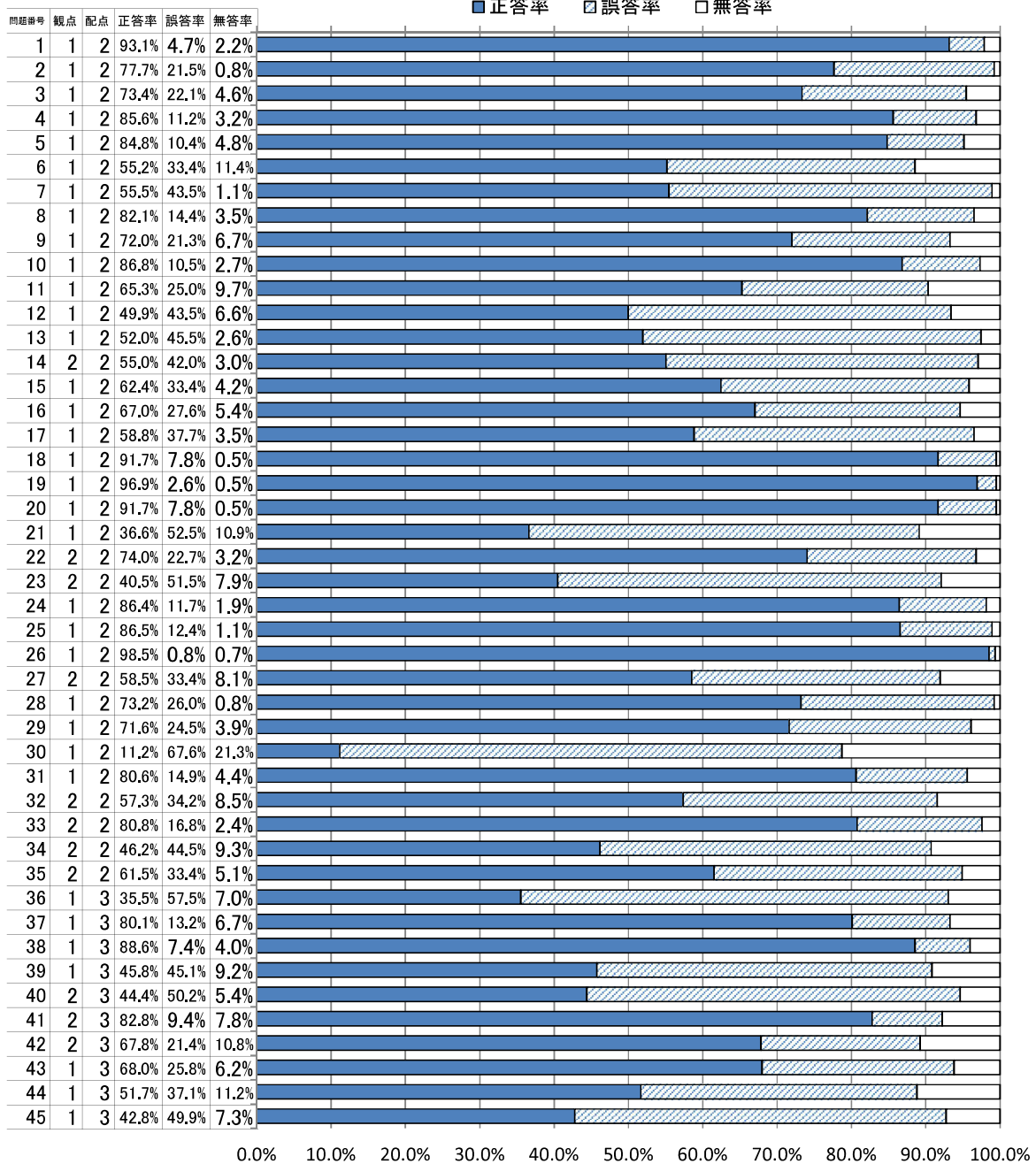
抽出生徒数

743人

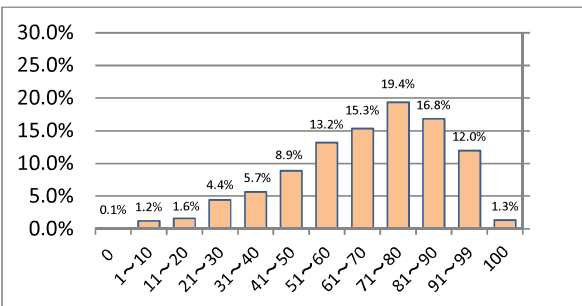
抽出平均

66.6点

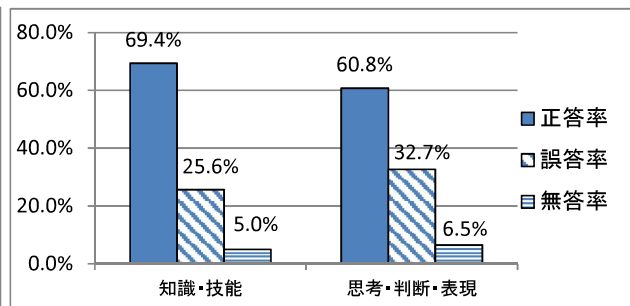
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 数学科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は、66.6点であり、昨年度より5.7点低くなっている。観点別の正答率は「知識・技能」が69.4%、「思考・判断・表現」は60.8%である。領域別に正答率を比較すると、「A数と計算」が70%、「B図形」が73%、「C測定、変化と関係」が62.9%、「Dデータの活用」が61.5%である。「C測定、変化と関係」は、正答率が50%以下の問題が12問中4問である。中でも人口密度を概数で求める問題（通し番号30）の正答率は11.2%であり、この領域における学習の定着に課題がみられる。

(2) 正答率の高い問題について

数量や図形について表現や処理をする技能を問う問題（通し番号1、18、19、20、26）は正答率が91%を超えた。四則演算、文字を用いた式で表現すること、図形から必要な情報を読み取ることなど、基本的な知識・技能は定着していると考えられる。

(3) 読解力と正答率の関連について

〔17〕は図表から情報を読み取り、会話文にあてはまる適切な言葉の組み合わせを選択する問題である。会話文と度数分布を表す表やグラフと重ねて、適切な代表値を選ぶ問題（通し番号43）の正答率は68%である。一方で、表やグラフから情報を読み取り中央値を求める問題（通し番号44）の正答率は51.7%、会話文と重ねてグラフから読み取れる事項を全て選択する問題（通し番号45）の正答率は42.8%である。いずれの問題においても、会話文と関連づけながら表やグラフから適切に情報を読み取ること、さらに読み取った事項を適切に処理する力が必要となる。データを整理分析するために、表やグラフに表すだけでなく、そこから伝えたいことに合わせて、必要な情報だけを選択し、数値を正確に処理することに課題がある。

（通し番号44、45）

〔17〕 下の表やドットプロット、ヒストグラムはあゆむさんとけんたさんの二重とびの回数についての記録です。2人はこれらのデータをもとに話し合っています。あとの問いに答えましょう。（中略）

(2) あゆむさんの中央値を求めましょう。



あゆむさん

ところで、ヒストグラムに表すといちばん度数が多い階級が一目で分かるね。

表、ドットプロット、ヒストグラムそれぞれから分かることがあるので、特ちょうをつかんで使うことが大切だね。



けんたさん

(3) 上の2人の会話からヒストグラムから分かることをア～エからすべて選び、記号で答えましょう。

ア 35回以上40回未満の数

イ 平均値

ウ いちばん多い回数といちばん少ない回数の差

エ 35回未満の割合

2 今後の授業に向けて

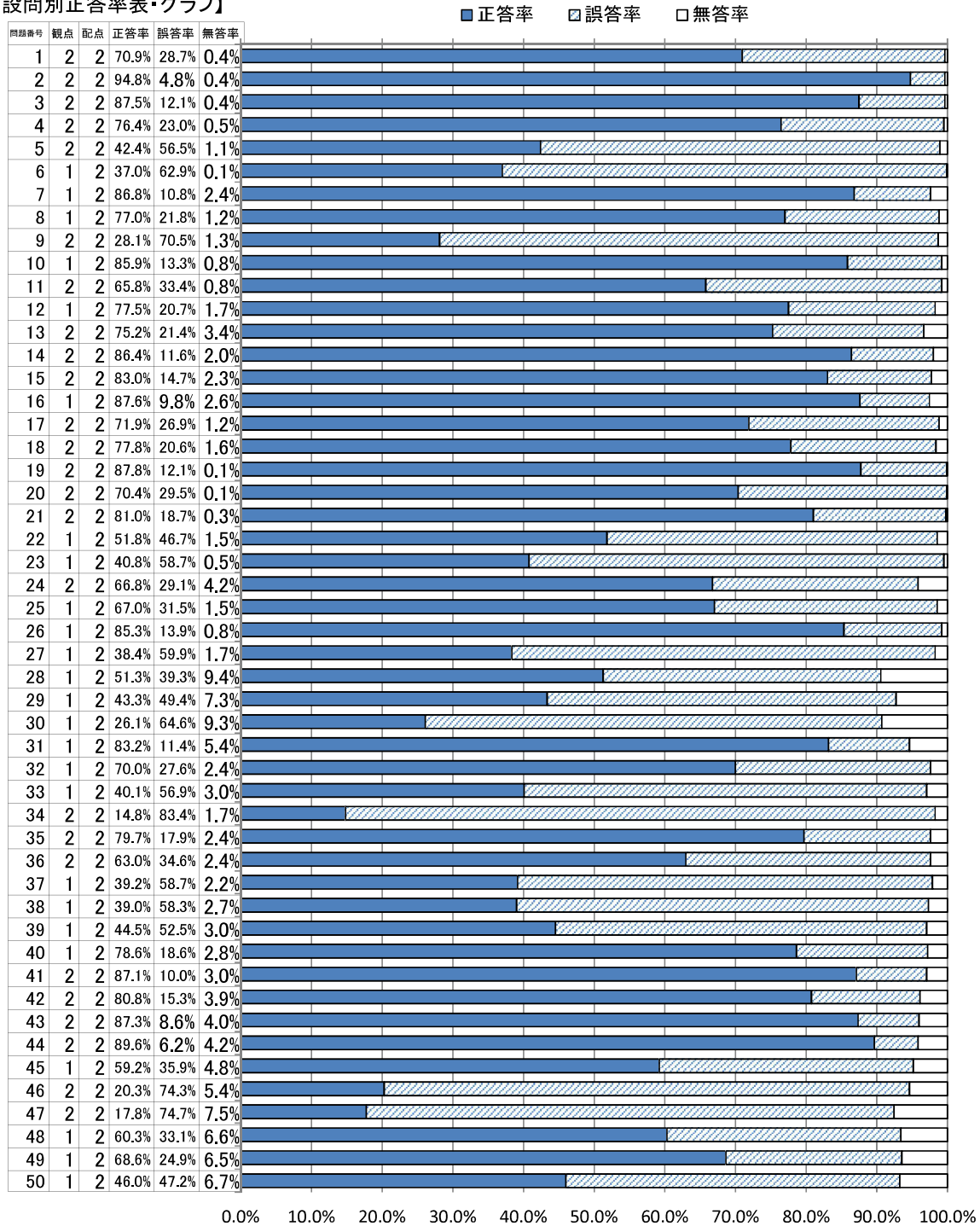
- (1) 領域「変化と関係」の学習について理解を図るためには、問題場面の数量の關係に着目し、基準量、比較量、割合の關係を読み取る力が必要である。日常の具体的な場面に対応させながら割合の意味について理解することが大切である。単に公式を用いて求めるだけでなく、数や式を日常の具体的な場面に関連づけて理解できるようにしたい。
- (2) 領域「データの活用」の学習について理解を図るためには、示された表やグラフから必要な情報を読み取り、データの特徴をとらえることが重要である。表やグラフを見て気がついたことを出し合ったり、それが適切かどうか話し合ったりする場を設けることで様々な見方・考え方に触れさせたい。また、身の回りの事象について、興味・関心や問題意識に基づき、表やグラフに表し、それを統計的に読み取り、周りに伝える場を設定することも大切である。

理 科

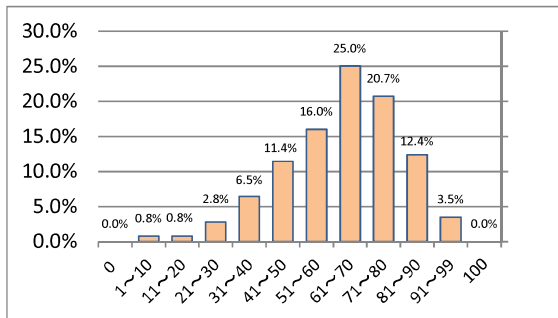
抽出生徒数 743人

抽出平均 63.8点

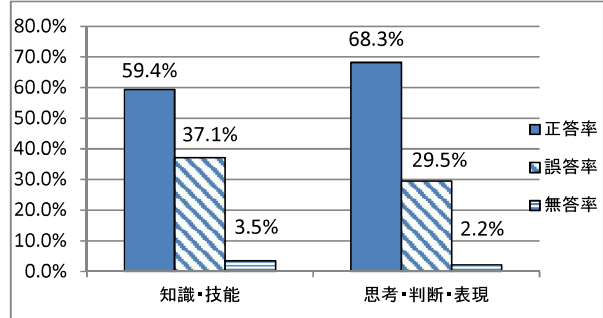
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 理科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は、63.8点であり、昨年度より7.8点低くなっている。観点別の正答率は「知識・技能」が59.4%で昨年度より14.6%低くなっている。「思考・判断・表現」は68.3%で昨年度より0.4%高くなっている。無答率が6%を超えた問題は、7問（問題数全体の14%）であり、昨年度より2問少なかった。そのうちの3問は、人が食べた物が何という器官を通り消化されるのか、名称を答える問題であった。残りの4問は、太陽と月の位置関係を江戸時代の俳句から考えたり、太陽と月の特徴を選択肢の中から選んだりするものであった。選択肢の中から選ぶ問題であったにも関わらず無答率が高いことから、太陽と月の位置関係を基に月の形を推測する力や太陽や月の観察を通して、それぞれの特徴を整理し、理解することに課題があると考えられる。

(2) 正答率の高い問題について

正答率が85%以上の問題は11問であった。これらの問題には、気象衛星やアメダス、現地の写真から天気を判断する問題やLEDと豆電球の電気の変換についてまとめる問題が含まれていた。写真や図、実験の結果等から何がいえるのかを考え、判断する力が育ってきていると考えられる。

(3) 読解力と正答率との関係について

[7]は、魚の雌雄では体の形状が異なることを理解し、「魚がたまごをうむようにするのは、どのように飼えばよいのだろうか」という課題から、魚がたまごを産むための飼育方法について、生徒が自分で問題を設定し、解決していく過程から出題している。[7] (2)①（通し番号34）は、「雌だけを飼えばたまごをうむのではないか」という生徒の問題の内容を読み取るとともに、問題を解決するための実験方法を構想する力が必要となる。(2)①の正答率は14.8%、誤答率は83.4%、無答率は1.7%であった。問題を解決するための実験方法を構想する場面での条件制御について吟味する力が課題である。

(2) ひろみさんとゆたかさんが、「メダカがたまごをうむようにするには、どのように飼えばよいのだろうか」という課題について、話し合っています。

ひろみさん：たまごをうむのはめすだから、めすだけを飼えばたまごをうむと思うよ。おすはたまごをうまないからおすを飼う必要はないと思うよ。

ゆたかさん：本で飼う方を調べたら、おすとめすをいっしょに飼うように書いてあったよ。そして、水そうは、日光が直接当たらない明るいところに置くと書いてあったよ。だから、おすとめすをいっしょに飼う必要があるし、明るくないとたまごをうまないかもしれないよ。

課題について調べるために次のア～カのような実験を考えました。

ア おす20匹を明るいところで飼う

イ おす20匹を暗いところで飼う

ウ めす20匹を明るいところで飼う

エ めす20匹を暗いところで飼う

オ おすとめすを10匹ずつ明るいところで飼う

カ おすとめすを10匹ずつ暗いところで飼う

① ひろみさんの波線部の考えを確かめるためにはア～カのどの実験を比べるとよいか、組合せを2つ答えましょう。

2 今後の授業に向けて

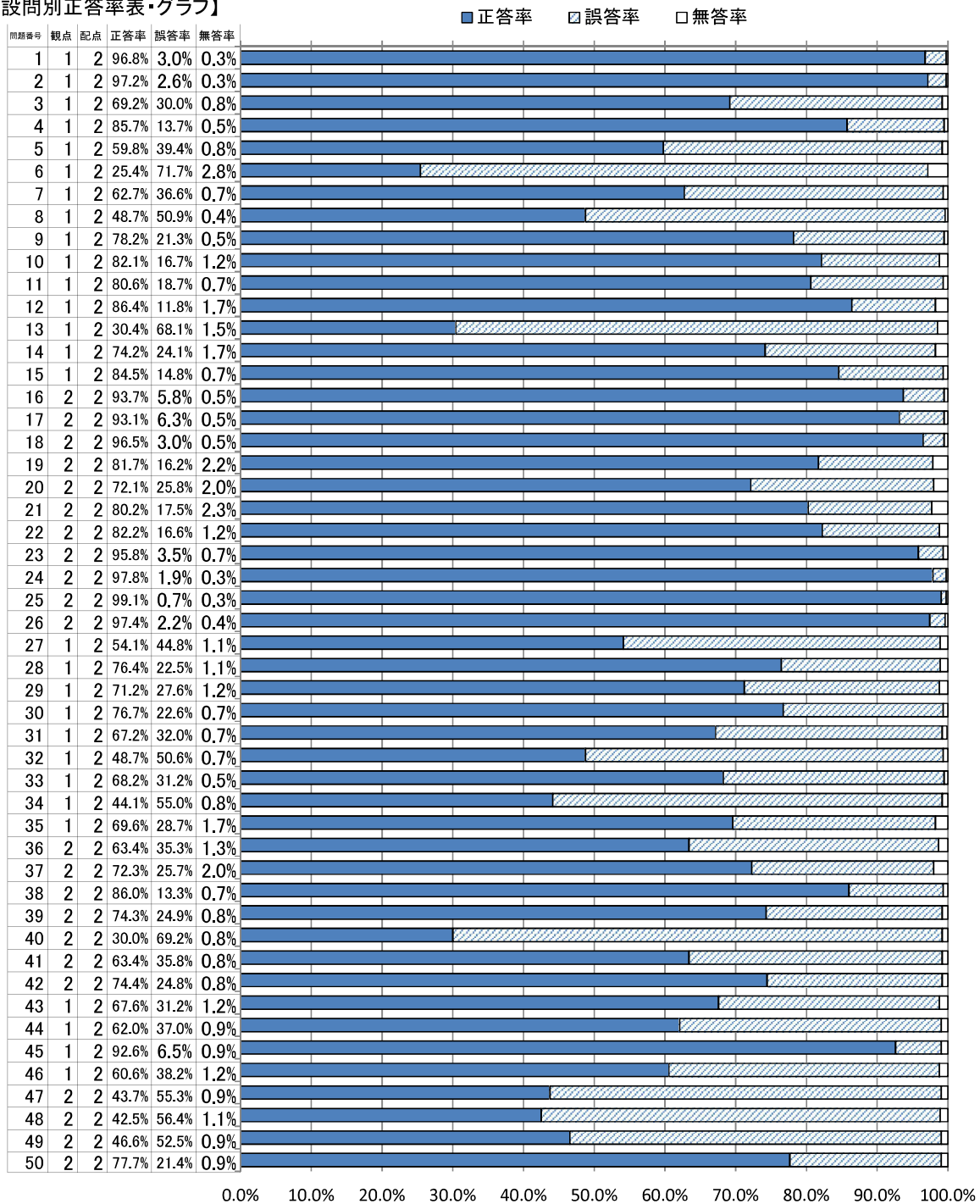
- (1) 理科の学習においては、生徒が自然の事物・現象から自分で問題を設定し、問題の解決に向けて、調整しながら学習を進めるなど、主体的に学ぶ問題解決型の授業を展開していくことが大切である。その際、教師が教えるべき内容と生徒が解決する問題を吟味して、単元を構想する必要がある。教師は、生徒が自らの問題を解決できるように、環境を整えたり、生徒の問題の解決に合った実験方法になっているか判断したりするなど、端末を活用し、個別に支援をしながら授業を行うようにする。
- (2) 生徒が自分の問題解決の中で得た知識・技能を活用できるようにすることが大切である。互いの問題解決の過程や考察を聞き合い、議論する場を設けたり、生活の中で使われている事象を教師が提示したりすることで、理科の見方・考え方を働かせながら、知識・技能を活用する力を高めていく。

英 語

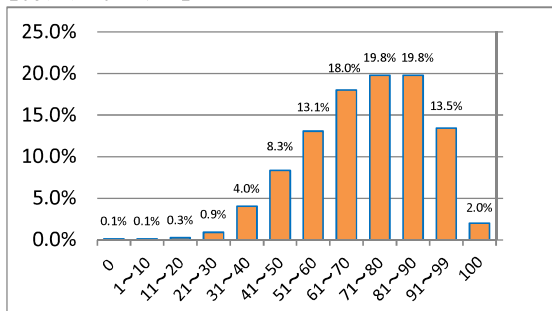
抽出生徒数 743人

抽出平均 71.7点

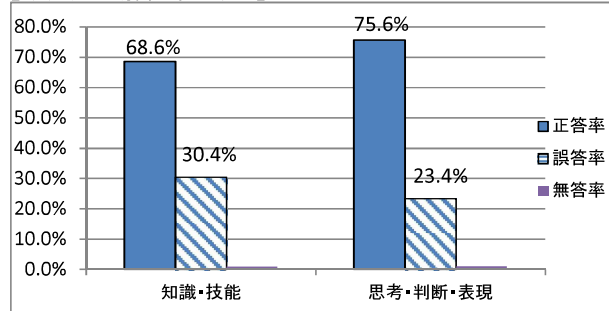
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 英語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 71.7 点であり、昨年度より 3 点高くなっている。観点別でみると、「思考・判断・表現」の正答率が 75.6% であり、「知識・技能」の正答率 68.6% に対し 7% 高くなっている。昨年度の調査では「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」より 5% 低かったことを考えると、授業において「情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすること」につながる言語活動がより多く行われるようになってきていることが一つの要因と考えられる。

(2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」に関する問題では、聞き取った英語が使われる場面を絵で選ぶ問題（通し番号 16～18）の正答率が 9 割を超えた。場面や状況に応じた言語活動により、相手の欲しいものや道順を尋ねる表現に慣れ親しんでいることが見てとれる。

「思考・判断・表現」に関する問題では、自己紹介の内容を聞き取ってそれに合う絵を選ぶ問題（通し番号 24～26）の正答率が 9 割を超えた。聞き取った内容の概要を捉える力が着実についてきていると考えられる。

(3) 読解力と正答率の関連について

（通し番号 36、37）

< 夏休みの出来事の内容 >

○
○ I went to the mountains in (①).
○ I enjoyed fishing.
○ I ate watermelon.
○ It was great.
○

(2) たかしさんは、相手に分かりやすいように発表するためスライドを作ることにしました。発表原稿に合うように、下の口のア～カから当てはまる絵を 3 つ選び、紹介する順に記号を①→②→③のように並べましょう。

1 ページ目 (①)

↓

2 ページ目 (②)

↓

3 ページ目 (③)

ア


イ


ウ


エ


オ


カ


(3) たかしさんの発表を聞いて、英語で質問をします。適当なものを、下のア～エから 1 つ選び記号で答えましょう。

ア Why do you like winter?
ウ Who is your hero?

イ Did you eat fish?
エ When is your birthday?

読解力を見る問題として設定された、「夏休みの出来事を発表するために、紹介する順番に合うように絵を選んだり、発表を聞いて適切な質問や推論をしたりする問題（通し番号 36、37）」では、それぞれの正答率が 63.4%、72.3% であった。文章の意味を捉え、事柄の順序に沿って内容を整理することにやや課題が見られる。その一方で、相手の発話を聞いてさらに知りたいことを質問するという力についてはついてきていることがうかがえる。

2 今後の授業に向けて

- (1) 「知識及び技能」については、音声や語彙、表現等を言語活動の中で指導することが重要である。その際、授業の中で身近な生活の場面を設定して英語表現に慣れ親しむようにするとともに、日常の様々な場面で英語に触れる機会を設定するなどして、英語で自己表現をしたりやり取りをしたりすることに積極的に取り組めるようにしたい。
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、「情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり伝え合ったりすること」ができるように指導する必要がある。授業においては、第一に目的や場面、状況を明確に設定することが肝要である。その上でコミュニケーションを見通して、実際に行った内容に関するまとめと振り返りを行うといった、指導と評価が一体となった単元を構成することで、ねらいとする姿に迫っていくことが大切である。
- (3) 「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養うためには、授業を実際のコミュニケーションの場とすることが重要である。子どもが興味や関心を持ち、「相手に伝えたい」「相手のことを理解したい」と思える内容を取り上げることで、伝え合うことへの意欲が高まる。そして、そのための知識や技能を身につけたくなり、どうすればよりよく伝わるかを考えて試行錯誤することにつながる。授業においては、教師が英語表現を教えるだけでなく、「こんなとき、どう言いたい?」「相手は何を伝えたいのだと思う?」などと問いかけることで、子ども自身が考えられるようにし、創造性を発揮できる場面を多く設けるなど、授業で扱う内容を子ども自身が自分のこととして捉えられるよう工夫する。